

訓点語学会

第一二六回 研究発表会

◇日時 令和四年五月二十二日（日）午前十時～午後四時三十分

◇会場 ZOOMを使用したオンライン開催

○ 研究発表

一、借字表記語彙からみる古文書漢文の和化過程

山本 久

―鎌倉～南北朝時代の「目出」を例に―

二、唐招提寺文書「家屋資財請返解案」における文体と表記

軽部 利恵

―「ム甲」の表記からみる文体とその意味づけ

三、「字鏡集」における漢字訓の和訓化について

伊藤 智弘

四、西大寺本『金光明最勝王経』平安初期点における

朴 賢

白文漢文注記について

五、『雅言集覧』における『うつほ物語』用例

平井 吾門

六、キリシタン文献・ローマ字本の

千葉 軒士

分ち書き方針変更の一要因について

七、『注好選』孝子説話に見る漢文和化の方向性

磯貝 淳一

○ 総会

〒六〇六一八五〇一 京都市左京区吉田本町

京都大学文学部国語学国文学研究室内

訓点語学会